

中学校での AI 活用：指導と注意のポイント

(改訂版 2025/2/20)

近年、ChatGPT などの対話型 AI が注目を集めています。中学校でも探究学習や情報活用スキルの育成を目的に導入を検討する場面が増えていますが、**リスク管理や指導方針の明確化が不可欠**です。以下のポイントを参考に、学校現場での AI 活用を検討してください。

1. 指導の基本姿勢：AI は「補助的ツール」

1. 主体はあくまでも生徒の学習意欲と教師の指導

- AI は課題解決や調べ学習の**ヒントを与える存在**であり、学習内容・評価基準を決定するのは教師や学校側です。
- 過度に AI へ依存すると、**学びのプロセスや生徒の主体性**が損なわれる可能性があることを意識しましょう。
- 近年は「オープンモデル（改造版 AI）」が登場し、フィルタリングが不十分な場合もあります。
- **使用する AI の種類や提供元（公式・非公式）を教師自身が把握し、教育的に適切なツールを選ぶ**ことも大切です。

2. 学習プロセスの可視化・振り返りを重視

- 生徒が AI から得た情報をどのように**取捨選択し、どのような根拠で判断したか**を確認できる仕組みが大切です。
- 単に AI の回答を鵜呑みにさせるのではなく、**事実確認（ファクトチェック）や多角的な検証**を促す授業デザインを意識してください。
- 「この情報は AI が言っているだけで根拠がないかもしれないよね？」と問いかけるなど、**批判的思考**を育てる場面として活用することがポイントです。

2. 活用事例と留意点

1. 探究活動・調べ学習

- 生徒が興味を持ったテーマを AI に尋ねて、キーワードや論点を整理する上で AI が有効。
- **注意**: AI が誤情報を混ぜ込むケースがあるうえ、フェイク画像・フェイク動画などの生成や拡散が深刻化しています。**複数の情報源と照合する**習慣づけや、フェイクを見抜く指導が重要です。
- 図書館の実書籍やインターネット検索との併用を推奨しましょう。

2. 文章表現・作文指導

- 生徒の書いた文章を AI に「要約」「言い回しの提案」などをさせ、**比較検討を通じて表現力を高める**手段として活用可能。
- **注意**: コピペ防止のため、「どこを参考にしたか」を生徒に振り返らせる。
- **著作権面**でも、AI が生成した文章は他者作品を無断で取り入れているリスクがあるため、そのまま使用せず**自分の言葉で再構成**させる方針を伝えましょう。

3. 授業準備・業務支援（教員向け）

- 指導案のアイデア収集、ワークシートや学級通信の下書きなどに AI を活用すると業務効率化が期待できる。
- **注意:** 個人情報や生徒の具体的な指導歴を AI に入力しないこと。**守秘義務**や校内規定に従い、安全管理を徹底してください。
- 使用する AI が「学習に使うデータをすべて保存する」ポリシーかどうかを確認し、**データを勝手に送らない工夫も必要**です。

3.トラブル防止のポイント

1. 悪意のある利用への学級指導

- AI で誹謗中傷やプライバシー侵害を行うと、**いじめや名誉毀損**となる恐れがあることを周知。
- フロリダ州など海外では、AI が原因で児童が深刻な精神的ダメージを負った事例も報告されており、**早期の啓発とルール作りが重要**。
- AI が出したフェイクコンテンツで他者を傷つけるリスクが高まっているため、**作成・拡散しないよう厳重に指導**しましょう。

2. AI 依存のリスク

- 生徒が「AI の答え＝絶対正しい」と思い込みすぎないように、「疑問をもつ力」「再検証の方法」を授業で取り入れる。
- 心理的に不安定な生徒が AI からの誤ったアドバイスに依存し、**誰にも相談しないまま追い込まれる**可能性が指摘されています。
- 変化に気づいたらスクールカウンセラーや管理職へ連携し、**メンタル面のケア**ができる体制を。

3. SNS 拡散の注意

- AI が生成した文章・画像を SNS へ投稿すると、**誤情報・不適切内容の爆発的拡散**が起こるかもしれません。
- 授業や学級指導を通じ、**投稿前の確認習慣**（ファクトチェック、他者への配慮）を徹底しましょう。
- フェイク画像・合成動画などはよりリアルになっているため、**見分け方・対策**にも触れると良いです。

4. 思春期特有の配慮

1. 反抗期や自己主張が強まる時期

- AI を“味方”につけ、家庭や学校と対立を深める生徒が出る場合があります。
- AI の主張をうのみにせず、**別の立場や根拠を考える指導**が大切です。

2. 進路や将来への不安

- AI から進路情報や学校情報を得ようとする生徒が増加。
- AI の回答は最新の受験事情や実情を正しく反映しているわけではないため、「**最終的には人間同士の面談で判断**」するよう強調してください。

3. メンタル面への影響

- AI が自傷や自殺を促すような不適切な応答をするケースも海外で報告されています。
- 生徒がショックを受けたときに**速やかに相談**できるよう、**教師間の連携・保護者対応**を確立しましょう。

5. 学校全体でのルールづくり

1. 導入方針の明確化

- 授業や校務で AI を活用する **範囲・目的・禁止事項**を、学校全体で共有し、保護者にも周知します。
- **オープンモデル**などの未確認 AI サービスを使うリスクを教師・生徒に説明し、可能であれば**許可する AI ツールを限定**することが望ましいです。

2. 使用可能ツールの指定

- 教育的価値やセキュリティ面を考慮し、**信頼できる公式サービスや公教育向けに設計された AI**を使用するのが安全です。
- 組織レベルのフィルタリングや年齢制限、プライバシー設定の確認など、教育委員会の方針と連携しましょう。

3. 校内研修や情報交換

- 教員同士が AI 活用事例やトラブル事例を共有し、**常にアップデート**する姿勢を持つ。
- 国際的レポートで言及されるような**最新の動向**（フェイク生成、バイオリスク※高校以上で扱うテーマかも、など）にもアンテナを張り、必要に応じて情報モラル教育を拡充しましょう。

6. 著作権や個人情報保護に関する注意

1. 生徒の提出物や教材を勝手に AI 学習データにしない

- 教師が作成したプリントや生徒が書いた作文を AI に入力する場合は、**コンテンツの権利やプライバシー**に注意が必要です。
- 機微情報（指導歴など）を含む可能性がある場合は、**該当部分を削除・伏せ字**にするなど慎重に扱しましょう。

2. AI 生成物の著作権リスク

- 生徒や教師が作った資料の一部に、**AI が無断利用した他者作品**が混ざっている可能性があります。
- 校内で配布する場合は著作権法の私的使用範囲を超えないケースが多いですが、公に公開する場合は注意が必要です。

3. 個人情報の取扱い

- ChatGPT などに生徒の名前や個人情報を入力しないよう徹底する。
- 教師間で連携し、**プライバシーポリシーやツールの利用規約を確認**してから導入しましょう。

7. まとめ

AI は中学校の授業や校務に**新しい可能性**をもたらしますが、国際 AI 安全レポートの指摘どおり、**誤情報・フェイクコンテンツ・心理的リスク・著作権や個人情報の問題**などを併せ持ちます。

教師としては、「どのような目的で、どう使うか」を明確にし、生徒には**批判的思考力・情報モラル・フェイクを見抜く力**を徹底指導する必要があります。

正しく活用することで、探究活動や文章表現力を高めたり、教員の業務効率化を図ったりできる一方、**安全策を怠れば深刻なトラブルが起こり得る**のです。

- 全校体制でのルールづくり
- 保護者や地域とも連携した情報共有

- 教師同士の研修・事例共有

これらを通じて、AIを安全かつ有効に活用できる学習環境を整備していきましょう。